

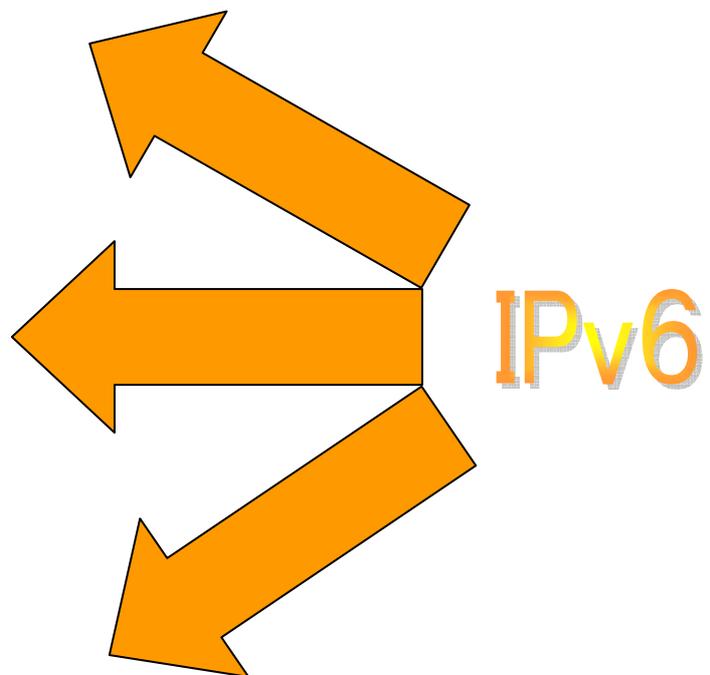
IPv6で障害も乗り越えちゃげシステム

概要

現代の日本は各地にバリアフリー化といった傾向が見られ、障害を持つ人は障害を持たない人と同じように日々を過ごすことができるようになってきました。ですが、やはり一人での外出は不安と共に不便です。そこで私が考えたのが、障害を持っている人がもっと安心して外出ができるシステムです。

IPv6の使い方

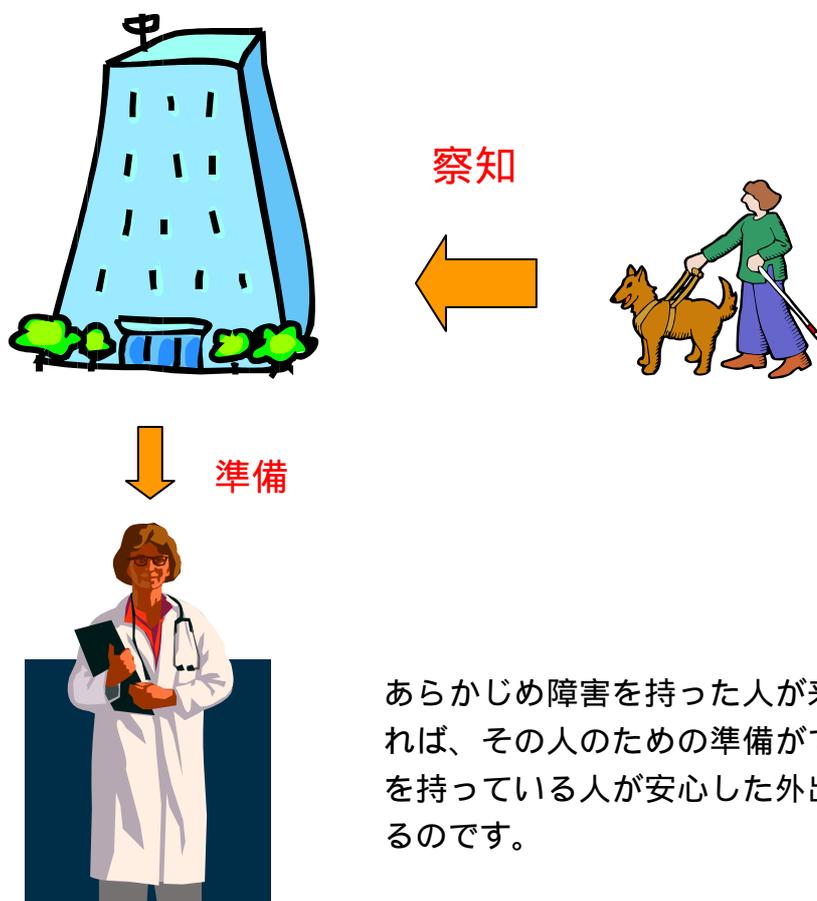
足の不自由な人には車椅子に、目の不自由な人には盲導犬や杖に、耳の不自由な人には補聴器に、それぞれIPv6を割り当てます。



施設や公共交通機関にこのIPアドレスを無線でキャッチできる装置を設置します。この装置の設置によって障害を持った人が施設に入ってきたことを知ることができ、常に気を配ることができます。

たとえば目の不自由な人が電車に乗ろうとしたとき事前に察知し、席を空けておくなどの対応をとることができます。

また、同じ時間帯に来るお客さんなどは装置に登録されるシステムを作ることによって係員などがシフト制の場所でも、その情報を見ればどの時間にどの場所にいればいいかがわかります。



あらかじめ障害を持った人が来ることを知っていれば、その人のための準備ができる。つまり障害を持っている人が安心した外出をすることができるのです。